

# 医療保障制度の導入が家計の予備的貯蓄に与えた影響

—タイにおける 30 バーツ医療制度の導入を事例として—

牛島光一

筑波大学 システム情報工学研究科 (〒305-8573 つくば市天王台 1-1-1)

2010 年 4 月 6 日

本研究の目的は、家計調査である Thai Socio-economic Survey 2000, 2004 を用いて、2002 年にタイで導入された大規模な医療保障制度 (30 バーツ医療制度) が家計の貯蓄行動に与えた影響を明らかにすることである。30 バーツ医療制度の影響は、2002 年度以前から導入されている医療保障制度との比較で特定する。消費の平準化を目的とした貯蓄を予備的貯蓄から切り離すために、Paxson(1992)の恒常所得モデルで分析した結果、30 バーツ医療制度対象家計の貯蓄行動は変化していないことが明らかになった。さらに、家計の社会経済的特徴によって予備的貯蓄の動機が異なっている可能性を考慮するためにサブグループに分けた分析を行ったところ、恒常所得の限界貯蓄性向が減少したのは農家だけであった。本研究の結果は、医療保障の対象となった多くの家計が、予測できない医療支出に対して予備的な貯蓄を行っていなかったことを示唆している。

**Key Words:** Health Insurance, 30 baht health care program, Precautionary Saving

**JEL classification:** D1; H4; I1